

庁議 議事概要

- 1 日 時 令和3年5月12日（水） 9時00分～9時30分
- 2 場 所 第一会議室
- 3 出席者 市長、副市長、病院事業管理者、教育長、局長（水道局長含む）、区長、会計管理者、病院局次長、教育次長、市長公室長、総合政策部長
（一部出席者はWeb会議システムで参加）
- 4 議 題 （仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン及び取組項目の原案の決定について

[決定事項]

令和4年3月の策定に向けて、（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン及び取組項目の原案を附属機関で審議するため、別紙のとおり決定する。

総合政策局長 ～資料に沿って説明～

(質問・意見等)

中央区長 スマートシティ推進ビジョンは、テクノロジーを導入するための計画ではないと認識している。

基本的な考え方として、千葉市が目指すスマートシティの項目において、「テクノロジーを使えて」という表現を前面に押し出すと、テクノロジーを導入するための計画と捉えられてしまいかねないので、審議会などでも再度、この視点での検討をお願いしたい。

また、スマートという言葉の定義しなくてもいいのか。他都市では定義をしており、スムーズであるというような要素を明示している。

総合政策局長 スマートシティの将来像について、まさしく審議会の中で議論されてきているもので、テクノロジーを「使えて」なのか、「使うことにより」なのかという、微妙な表現の違いで、だいぶニュアンスが変わってくる。今後、十分、審議会でも議論をしていきたい。

スマートシティのイメージだが、千葉市なりのまちづくりにつなげていくイメージをしっかりと作っていくことが対外的にもスマートシティ推進ビジョンを根差すことにつながるの、しっかりしたイメージ像とそれに対応する説明を書いていきたい。

市民局長 この分野は、民間がデータを活用することによって新たな事業を行うという要素が強いと思っているが、今の段階では、行政が、というトーンが強いような気がする。

民間がこの推進ビジョンをみたときに、どのような形でインセンティブを働かせることができるかという視点をいれたほうがよいのではないかと。

また、データ連携基盤をどう実現していくか、行政が持つのか、民間が持つのか

- か議論があるところだと思う。どういう方向にもっていくのか、活用のしやすさと合わせて、議論が必要になっていくと思う。
- 総合政策局長 民間の技術の導入等の点について、議論の対象としたい。
データ連携基盤について、部会での審議等において、様々な意見があり、何のデータをどう活用するのかという議論はしきれていない状態である。1つ1つ考えていく。
- 市民局長 ロードマップにおいて、20年後にデジタルツインの記載があるが、現状から中期の部分と長期の部分で飛躍している印象である。
実際に、デジタルツインで挙げている技術は、実現しているものもあるので、突然20年後に出てくる話ではなく、徐々にそうになっていくというイメージになるように表現すべきである。
- 総合政策局長 デジタルツールの活用はされているが、市の地域課題を解決するための活用は、始まったばかりである。
デジタルツインの記述の部分がわかりにくいという意味に受け取ったので、わかりやすくするよう検討したい。
- 中央区長 地域コミュニティの話が、取組項目でも掲げられているが、今週、市内の地域運営委員会にて、WEBミーティングを行うことになっており、企業だけでなく、地域コミュニティでも、デジタル技術の導入が進んでいると感じさせられている。
令和4年から令和8年という期間で取組んでいくロードマップとなっているが、早まる可能性があると思う。
- 市長 今後も先行的な取り組みがあれば、教えてほしい。
- 総務局次長 テクノロジーは道具であり、使い次第で、人を傷つける可能性もある。目的があって、テクノロジーはそのための手段だという認識をしてもらいたい。
推進体制において、できることから着実に推進、とあるが、民間との協働を考えるなら、失敗を恐れず、チャレンジしていくというスタンスを出してもいいと思う。そうすれば、民間の方も一緒に取組みやすくなる。
- 市長 データ連携基盤について、これまでに具体的な検討をした事項はあるか。
また、今回のビジョンの中で、どこまで具体化をしていくイメージなのか。
スーパーシティと関連するのか。
- 総合政策局長 データ連携基盤の整備はスーパーシティにおいて必須となっている。
スーパーシティへのエントリーについて検討したときは、データで何をするのか、どのような分野で、どのような形で連携し、どのようなサービスに結び付けていくのかという点について、慎重に検討すべきということになり、現時点では、具体的なイメージが出ていない。
- 市長 スーパーシティで目指している包括的な話は、いきなりは難しいと思うが、利便性が向上するなら、単体のサービスでも提供することを目指してほしい。
利便性が向上するような取組みに使えるような基盤をまずは整備していくところから始めてもらえればと思う。
また、個別の取組で、MICEに関するところについて、現在、コロナの関係でインバウンドやMICEの将来像がはっきりしていない。そのため、現在、

検討するとオンラインと併用したハイブリッドという話になってしまう。
でも、それはコロナ禍を収束させる取組の一つに過ぎないので、MICEが今後どうなっていくのか等、施策の背景として、有識者に聞くなど、しっかりしたベースを持ったうえで、今後の取組を導いてほしい。
スマートシティ推進ビジョンの中でなく、MICEの取組全体に関するところかと思うが、改めて仕切り直し、今後の変化を調べたうえで、施策の打ち出しをしてほしい。

総務局次長 データ連携基盤について、市が持っているデータを民間と連携するという話であれば、オープンデータを進めている。データを連携するときに、市が持っているデータを共有することに加えて、民間が持つデータを民間同士や市と共有することが重要になってくる。これをどうやっていくのが課題である。データを開放し、連携していくのか、単にもらうだけなのか。どういう状況を実現したいかによって、データ連携基盤が決まってくる。
その内容が発展するに応じて基盤も発展すると思っており、情報経営部としても未来都市戦略部と議論していきたい。

市長 データ連携基盤については、具体的な取組みの内容を相談してほしい。

鈴木副市長 表現の話だが、今後、様々な世代の方がビジョンを見ていくことになるときに、カタカナが多いと感じる。あえて解説をつけてまで、カタカナにする必要があるのか。例えば、アーキテクトやシビックテックなどである。
新しい考え方の中で、どうしてもカタカナ用語を使わないといけない部分もあると思うが、何かしらフォローしないとイケない。
本体を修正するのか、解説を加えるのか、検討してほしい。

総合政策局長 用語等について、再度、置き換えができないか検討し、難しいなら、脚注などで、解説していきたい。

市長 誰に説明するかにもよるが、重要な視点の一つである。カタカナでないと表現できない概念であれば、脚注つける等をしてわかりやすくしてほしいし、日本語でも意図するところが変わらないなら、日本語にしてもらいたい。
それでは、いくつか意見があったが、それらの意見に対応することを前提に、方針決定とする。

— 結果 —

本会議の意見等への対応を前提に、方針決定とする。

5 照会先

- ・会議の運営等について

総合政策局総合政策部政策調整課

TEL 043(245)5057

- ・議題について

総合政策局未来都市戦略部スマートシティ推進課

TEL 043(245)5634